

ローマ教皇の後ろ盾があったラファエロ イタリア

ローマ市内には古代遺跡が数多くあるが、中でも世界一の石造建築パンテオンは、2千年も前の建設当時そのままの姿でそそり立ち見る人の度肝を抜く。余談だが中世の頃に描かれた絵画を見るとパンテオン前の広場は屠殺場になっていた時代もあったようだ。

パンテオンは柱がない大きなホールである。柱の代わりに巨大な空間を支えているのは外壁である。その厚さたるや尋常な厚さではない。また上を見上げると天井に大きな円形の穴があり、青い空が見える穴は明り取りである。雨降りの時には雨が落ちるが床には排水溝が備わっている。

壁面には様々が飾られているがその中の一つにラファエロの廟がある。中世のころミケランジェロはじめイタリアの著名人の多くはフィレンツェにあるサンタ・クロチェ教会に葬られることを望んでいるが、ミケランジェロと並んでヴァチカンに大作を残している高名なラファエッロが、なぜ



古代のパンテオン



ラファエロの廟

ローマのパンテオンに葬られたのか、判らなかったが彼の足跡をたどって判明した。ラファエロ自身の遺言でここに葬られたのである。因みにパンテオンには現在のイタリアを統一した、ヴィットリオ・エマヌエーレ2世も祀られている。

ラファエロ・サンティ（1483年～1520年）はイタリアを代表する画家である。レオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロと共にルネサンスの三大巨匠としてよく知られている。短命でありながら多くの作品を残している。

イタリアの都市国家ウルビーノ公国で生を受け、父親は公国の宮廷画家であった。11歳で両親と死別し孤児となって、聖職者だった叔父に育てられている。芸術的なセンスは幼少のころから人並外れプロの画家である父親の助手を務めることもあったという。

1500年ごろ工房を経営するペルジーノに師事し、1501年マスターとして登録されている。

ラファエロは優れた技法を持っている画家たちから学びとり、それを自身のものにすることに極めて巧みで、ラファエロの描いたものか師匠のペルジーノが描いたものか判別しにくいものがあったり、ミケランジェロは自分の画法をラファエロが盗み取ったなどとも言っている。また代表策の一つである1506年に描いた”ベルヴェデーレの聖母“は、レオナルド・ダ・ヴィンチの編み出した技法である三角形の構成で聖母子が描かれている。



ベルヴェデーレの聖母

余談だが師匠のペルジーノはローマからフィレンツェ行きの特急列車で1時間、温泉地キウージで下車して山上にある中世の面影が色濃く残る人口6千人足らずのチッタ・ピラ・ピエベが出身地である。ピエベ村の教会にはペルジーノの描いた古びた絵画が残されている。

1508年、25歳のラファエロは教皇ユリウス2世の招きによりローマにやってくる。社交上手でローマ教皇ユリウス2世に、そして次の教皇であるレオ10世にも支援されている。ラファエロはローマ教皇の近侍として教皇庁内では高い地位で遇され、ナイトの爵位も得ていたが、噂では枢機卿の地位を欲していたといわれている。

当然教皇の後ろ盾があっただろうが、ヴァチカンではユリウス2世がラファエロに自身の4部屋からなる居室にフレスコ画を描かせた。現在ではこの4部屋を”ラファエロの間“と呼び、第3室に描かれているフレスコ画”アテネの学堂“は最高傑作と言われている。ラファエロは師であるペルジーノと同様自身でも工房を経営していた。最盛期には優れた才能のある50名もの弟子や助手を擁していたとされる。生涯に渡り聖母子像や聖母マリアを題材とする作品を多く描いている。



アテネの学堂



キリストの変容

ラファエロはローマ教皇の近侍として教皇庁内では高い地位で遇され、ナイトの爵位も得ていたが、噂では枢機卿の地位を欲していたといわれている。

彼は生涯をとおして独身を貫いたが、一方では多くの女性と関係を持っていたそうだ。

ローマ市内にあるバルベリーニ宮は現在国立古典絵画館となっているがここに上半身裸体のラファエロの恋人と言われるフォルナリーナが展示されている。彼女も愛人の一人と言われている。

余談ながらバルベリーニ宮は映画「ローマの休日」で王女一行の宿舎となった宮殿である。



フォルナリーナ

ヴァチカン美術館にある“キリストの変容”はラファエロの最晩年の遺作であるが、発注主はジュリオ・デ・メディチである。この絵は一時ナポレオンによってフランスへ持ち去られたが、彼の死後返還されたという、いわくがある傑作である。

印象に残る絵画の一つとして“ドンマーズ・インギラーミの肖像”を挙げたい。ドンマーズはヴァチカンの図書館長であるがひどい斜視であったが自身の肖像画を親交のあったラファエロに発注した。斜視を修正することなくありのままに描いている。二人にはどんなやり取りをしたのか気になるところである。

ラファエロは歴史に名を留める大画家だが、惜しむらくはローマにおいて37歳の若さでこの世を去っているルネサンスの三巨匠と称されるレオナルド・ダ・ヴィンチは67歳、ミケランジェロは88歳と二人は長命であった。

